

2. 学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供

(1) 各種調査の設計・実施・分析

1) 新入生の生活に関する調査

調査の概要

平成 23 年度から 25 年度に本学への入学を予定している学生およびその保護者を対象に、有益な学生支援の検討および実施を行うことを主たる目的として「新入生の生活に関する調査」を実施した。

調査の概要は以下のとおりである。

・調査目的：

入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。

具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- ・調査時期：2011 年 3 月（平成 23 年度調査）、2012 年 3 月（平成 24 年度調査）、2013 年 3 月（平成 25 年度調査）

・調査方法：

郵送による送付・返送。一般入試合格者（および保護者）に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。

その他の方法での合格者（および保護者）に対しては、別途、調査時期に、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

・調査分析対象：

返送者のうち分析許可を得ることができなかった者は分析対象から除外した結果、次のような有効回答数（有効回答率）となった。

「**新入生を対象とした調査（以降、新入生対象調査とする）**」

- ・平成 23 年度学部入学者 484 名。有効回答数 396 名（入学者のうち 81.8%）。
- ・平成 24 年度学部入学者 484 名。有効回答数 400 名（入学者のうち 82.7%）。
- ・平成 25 年度学部入学者 482 名。有効回答数 407 名（入学者のうち 84.4%）。

「**新入生の保護者を対象とした調査（以降、新入生保護者調査とする）**」

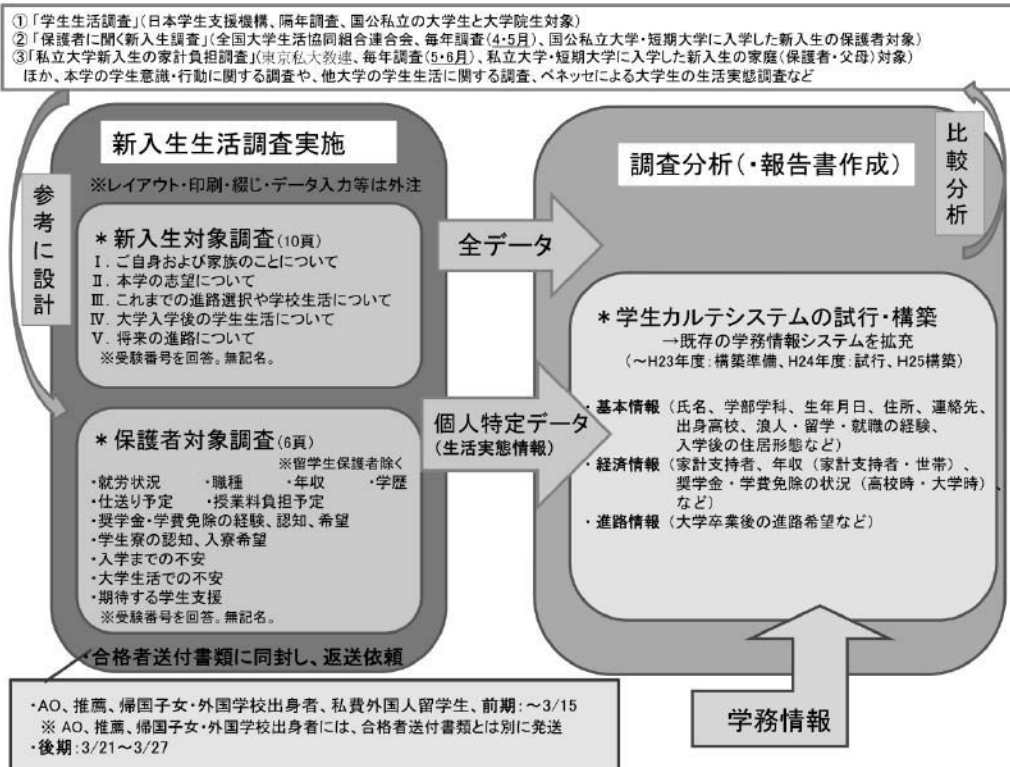
- ・平成 23 年度学部入学者のうち私費留学生を除いた 480 名。有効回答数 382 名（入学者のうち 79.6%）。
 - ・平成 24 年度学部入学者のうち私費留学生を除いた 483 名。有効回答数 398 名（入学者のうち 82.4%）。
 - ・平成 25 年度学部入学者 482 名。有効回答数 400 名（入学者のうち 82.3%）。
- ※平成 25 年度は私費留学生がいなかったため、すべての学部入学者の保護者を調査対象とした。

※個人情報について：

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている（詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照）。調査票は、大学で付けた ID 番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

調査内容は、出身高校、家族、志望動機、進路選択、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としている。

こうした目的に加え、一部の調査項目については、回答者の許可を得た回答結果を学生カルテシステムに個人情報として登録することとしている。それにより、単なる調査にとどめず、必要とされている支援情報を、個々の学生に応じてダイレクトに提供することを可能にすることが期待できる。



「新入生の生活に関する調査」と「学生カルテシステム」の関連についての概念図

調査の結果

調査結果および調査票は、各年度で報告書としてまとめており、本学の学生・キャリア支援チームで冊子として入手できる。ほか、TeaPot（お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション）（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>）からも PDF 形式でダウンロード可能としており、広く公開している。

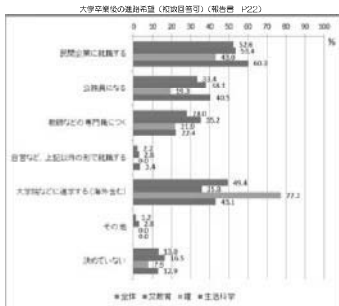
さらに報告書の内容の一部は、「学生支援センターResearch Report」としてまとめ、学生・キャリア支援センター学生生活支援部門ホームページ内「調査結果のご報告」（http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html）にて、以下のように公開している（以下は平成 25 年度調査の例）。

The screenshot shows the website of the Ochanomizu University Student Career Support Center. The main content area features a survey report titled "平成25年度新入生の生活に関する調査" (Survey on the lives of new students in Heisei 25), dated November 27, 2013. The report text explains that the center conducted a survey on the lives of new students in Heisei 25, with results showing that 85% of students chose their first choice university, and 23% of students plan to work after graduation. The report is available as a PDF file for download. The sidebar contains various links and information, including a "To students" section with a "学生ポータルサイト" (Student Portal Site) and a "Related contents" section with links to "学生・キャリア支援センター" (Student Career Support Center) and "グローバル教育センター" (Global Education Center).

第3回 「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」

1. 「民間企業就職」「大学院などへの進学」希望者がおよそ半数

本学の新入生は、大学卒業後の自身の進路について、どのような希望を持っているのでしょうか。



全体で見ると、「民間企業に就職する」が52.6%、「大学院などに進学する(海外含む)」が49.4%でした。ただし、「大学院などに進学する(海外含む)」は、理学部77.2%に対して、生活科学部が文数専攻部は4割程度であり、学部による差もみられます。「公務員になる」「就職先の専門職につく」が3割程度でそれに続いています。
また、「決めていない」は全体の13.0%に過ぎないことから、本学の新入生は、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている学生が多数であることがわかります。この傾向は理学部で目立ちます。

2. 正規雇用で、最初の就職先に長く勤めたい

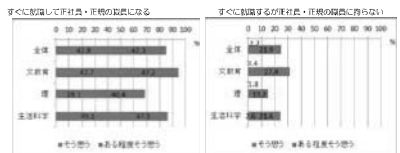
では、本学の新入生は、大学卒業後の就職について、どのような考えを持っているのでしょうか。「卒業後の就職」「就職後の勤務・進路」「卒業後・就職後の大学進学」といった観点から見ていきます。

①「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件まで尋ね、その結果②「そう思う」+「ある程度そう思う」を示した結果を報告しています。

(1) 「卒業後の就職」についての考え (報告書 P22-23)

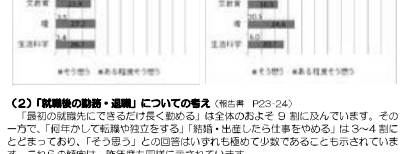
「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」が全体の8割を超える一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「賞与特給・公務員特給などに合格するまで就職しない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は2~3割にとどまっています。この傾向は昨年度も同様に表示されています。

学部別にみると、理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」が他学部比入って高く、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」が低い傾向がみられます。この傾向も昨年度も同様に表示されています。



(2) 「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P23-24)

「最初の就職先でできるだけ長く勤める」は全体のおよそ9割に及んでいます。その一方で、「初年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は3~4割にとどまっています。「そう思う」との回答はいずれも極めて少数であることを示しています。これらの傾向は、昨年度も同様に表示されています。



最初の就職先でできるだけ長く勤める



初めの就職先でできるだけ長く勤める

初めかして転職や独立をする

結婚・出産したら仕事をやめる

3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

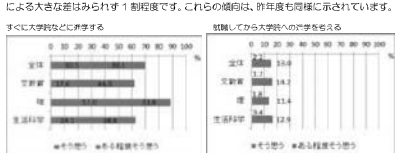
さいに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについて見ていきます。

まず、父親の関与について尋ねたところ、62.6%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の父親の関与が目立ちます。

②「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件まで尋ね、その結果②「そう思う」+「ある程度そう思う」を示した結果を報告しています。

③「卒業後・就職後の大学進学」についての考え (報告書 P24)

「すぐに大学院などに進学する」は、全体のおよそ7割ですが、理学部は他学部比比べて明らかに高い結果となっています。一方、「就職してから大学院への進学を考えると」、学部による大きな差はみられず1割程度です。これらの傾向は、昨年度も同様に表示されています。

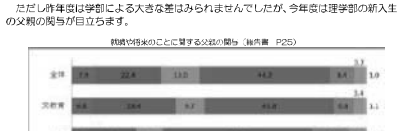


3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

さいに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについて見ていきます。

まず、父親の関与について尋ねたところ、62.6%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の父親の関与が目立ちます。

④「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

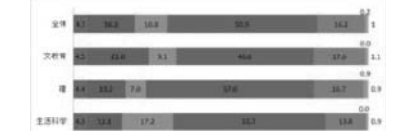
さいに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについて見ていきます。

まず、父親の関与について尋ねたところ、62.6%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の父親の関与が目立ちます。

同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

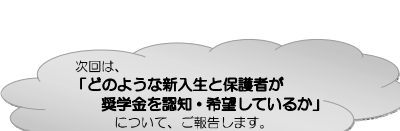
⑤「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

⑥「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

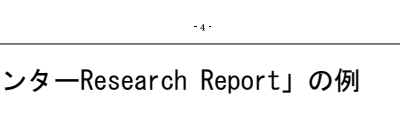
⑦「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

⑧「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

⑨「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。

ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。

⑩「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P25)



2) キャリア意識に関する調査

調査の概要

「新入生の生活に関する調査」などの結果から、「就職・キャリア支援」に対する本学の学生および保護者のニーズが極めて高いことがわかった。その実施について検討することを主な目的として、学部 1 年生～4 年生および大学院前期課程生を対象に「キャリア意識に関する調査」を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

・ 調査目的：

学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 本学の学生のキャリア意識・キャリア行動の特徴を把握し、キャリア意識を高めるためにどのような支援を行ったらよいか検討する。
2. 奨学金受給者、授業料免除者、寮生のキャリア意識・キャリア行動の特徴を把握し、どのような支援を行ったらよいか検討する。
3. 本学のキャリア関連授業がどの程度浸透しているかを明らかにし、今後どのように授業運営を行っていったらよいか検討する。
4. 大学生活および経済・生活支援とキャリア意識・キャリア行動との関連を把握し、大学生活の送り方や経済・生活支援の違いにより、キャリア意識、キャリア行動に違いが見られるかを検討する。

・ 調査時期：2011 年 10 月～11 月

・ 調査方法：お茶の水女子大学学生ポータルサイトを用いたウェブ調査

・ 調査協力依頼：

お茶の水女子大学ホームページ、学生支援センターホームページ、学内掲示版、OchaML、教員向け ML での告知、図書館および情報基盤センターの TV 画面への調査実施依頼の掲載、学内でのチラシ配布等により、学生への調査協力依頼を行った。

・ 調査分析対象：

学部生 2,091 名および、大学院前期課程生 546 名。有効回答数 799 名 (30.2%)。内訳は、文教育学部 288 名 (30.2%)、理学部 176 名 (31.5%)、生活科学部 175 名 (30.2%)、大学院前期課程 156 名 (28.6%) (詳細は以下参照)。

	対象者数	回収数	回収率(%)
合計	2637	799	30.2
文教育学部	953	288	30.2
人文学科	259	93	35.9
言語文化学科	382	92	24.1
人間社会学科	196	74	37.8
芸術・表現行動学科	116	29	25.0
理学部	559	176	31.5
数学科	93	34	36.6
物理学科	99	29	29.3
化学科	88	27	30.7
生物学科	109	46	42.2
情報科学科	170	40	23.5
生活科学部	579	175	30.2
食物栄養学科	157	39	24.8
人間・環境科学科	107	37	34.6
人間生活学科	315	99	31.4
大学院前期課程	546	156	28.6
比較社会文化学	154	44	28.6
人間発達科学	70	18	25.7
ジェンダー社会科学	48	9	18.8
ライフサイエンス	116	39	33.6
理学	158	46	29.1
無回答	-	4	-

学部・学科別回収率

※個人情報について：

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている（詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照）。

	対象者数	回収数	回収率(%)
1年生	484	173	35.7
2年生	480	130	27.1
3年生	519	203	39.1
4年生	608	127	20.9
大学院前期課程1年生	277	98	35.4
大学院前期課程2年生	269	64	23.8
無回答	-	4	-

学年別回収率

調査の結果

調査結果および調査票は報告書としてまとめており、本学の学生・キャリア支援チームで冊子として入手できる。ほか、TeaPot（お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション）（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>）からもPDF形式でダウンロード可能としており、広く公開している。

報告書の一部は、「学生支援センターResearch Report」として以下のようにまとめ、学生・キャリア支援センター学生生活支援部門ホームページ内「調査結果のご報告」にて、以下の様に公開している（http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html）。

お茶大生のキャリア行動とキャリア教育の活用状況の結果報告
2012年04月05日

学生支援センターでは、文部科学省特別調査プログラム「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会確保の促進」の一環として、本学学部生および博士前期課程生を対象に「キャリア意識調査」を実施しました。

調査内容は、就職・進学先の決定状況、進路に向けた準備活動を始めた時期、本学のキャリア支援の利用状況、本学のキャリア支援の充実度、将来のキャリアに対する意識、希望する進路、産業、就業形態、企業採擇の志向、結婚と仕事への価値観など多岐にわたるもので、いずれも、学生の実情をふまえ、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

調査は学生ポータルサイトを用いたWeb調査として行い、学部生では30.6%、博士前期課程生では28.6%の方々から、回答を得ることができました。

◆題目

1. 来年度卒業・修了予定者の7、8割が進路決定
2. 就職先では公務員の比率が高く、進学先ではお茶大の比率が高い
3. 学部生は3年生汎、博士前期課程生は1年生汎から準備する傾向
4. 学部生では、本学のキャリア支援を利用したことがない学生が多い
5. キャリア関連の授業の受講率は3割程度、受講者は満足と認識

▶【第1回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 564KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

お茶大生のキャリア意識の結果報告
2012年04月05日

◆題目

1. 学年に関わらず仕事について漠然と考えている学生が多い
2. 学部生では公務員、進学を希望する割合が高い
3. 希望する産業は、文教育学部ではマスコミ・広告・調査が多く、理学部、生活科学部、博士前期課程では、製造業・建設業が多い
4. 本学では総合職での就業を希望する学生が多い
5. 本学では「その他(教員・進学・公務員など)」を希望する割合が高い
6. 本学では結婚しても仕事を続けたい学生が多い

▶【第2回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 363KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

「経済・生活支援の利用とキャリア支援への評価
2012年04月09日

◆題目

1. 経済・生活支援の利用状況
2. 経済・生活支援の利用状況とキャリア支援への評価

▶【第3回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 422KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

キャリアデザインプログラム受講状況とキャリア意識について
2012年04月09日

◆題目

1. キャリア関連科目の受講状況
2. キャリア関連科目の位立ち度
3. キャリア関連授業の受講とキャリア意識

▶【第4回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 488KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

第4回 「キャリアデザインプログラム受講状況と
 キャリア意識について」

今回は、本年度より開講となったキャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況と、これらの授業の役立ち度、また、受講とキャリア意識の関連などに焦点を当ててまいります。

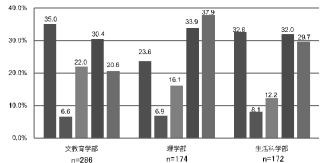
1. キャリア関連科目の受講状況

学部生を対象に、キャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況について尋ねました。まずは、その結果について、学部・学年ごとに着目して概観します。

(1) 学部別受講状況

文系学部、生活科学学部では90%以上が、理工学部では約23%が「受講した」と回答していますが、すべての学部で90%以上が「受講するつもりがない」とも答えています。また、理工学部では37%が「プログラムを知らない」と回答しており、今後、キャリアデザインプログラムの認知度を上げていく必要があると考えられます。

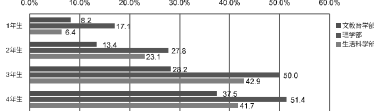
学部別受講状況



(2) プログラムの認知度

続いて、本調査において「プログラムを知らない」と答えた回答者について見ていきます。全体として、学年が上がるにつれ認知度が下がっていく傾向にあります。理工学部の3年生・4年生では半数が「プログラムを知らない」と回答していることが分かります。

「プログラムを知らない」(学部・学年別)

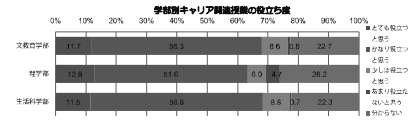


2. キャリア関連科目の役立ち度

次に、キャリア関連科目の役立ち度について尋ねました。「とても役に立つ」「かなり役に立つと思う」「少しは役に立つと思う」「あまり役に立たないと思う」「役に立たない」と回答した割合を、学部・学科別、受講状況別に掲載します。

(1) 学部別にあるキャリア関連授業の「役立ち度」

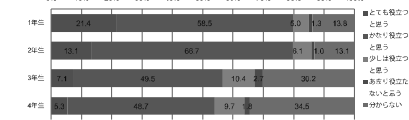
結果、どの学部においても60%～70%程度が「とても役に立つ」あるいは「かなり役に立つ」と回答していることが分かります。



(2) 学年別にあるキャリア関連授業の「役立ち度」

学年別では1年生・2年生の80%がキャリア関連授業に意義を感じていることが分かります。対して、3年生・4年生には「わからない」が増え、30%以上となっています。

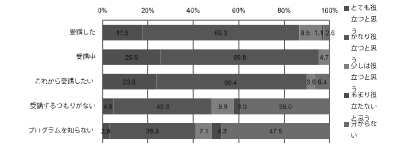
学年別キャリア関連科目役立ち度



(3) 受講状況とキャリア関連授業の「役立ち度」

受講経験がある回答者の内、85%～95%はキャリア関連授業を「役に立つ」と考えていることが分かります。

受講状況とキャリア関連授業の役立ち度



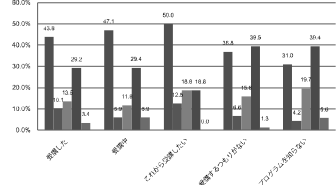
3. キャリア関連授業の受講とキャリア意識

キャリア関連授業の受講状況と、学生のキャリア意識について着目し、授業の受講と将来の進路希望とを掲載していきます。

(1) 受講状況と希望する進路

キャリア関連授業を受講した・受講中・受講したいと回答した者は、民間企業への就職希望が4割から5割を占めています。また、受講した・受講中では進路希望者が9割強となっています。「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」回答者は、進路希望が4割弱と最も低くなっています。

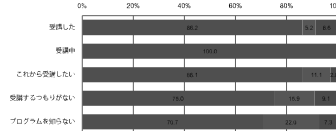
受講状況と希望する進路



(2) 受講状況と希望する就職形態

キャリア関連授業を受講した・受講中・受講したいと回答した者で正規・総合職希望は86%～100%となっています。対して「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では、「正社員・総合職」への希望も15%～20%程度に落ちています。また、「受講中」という回答者以外では1割強の「まだ決まっていない」が含まれています。本学では学部全体の傾向として「正規・総合職」希望者が割合と多い(第2回「お茶大生のキャリア意識の結果報告」より)結果となっていますが、キャリア関連科目の受講者・受講希望者には特にその傾向が強いようです。

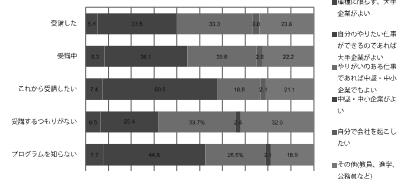
受講状況と希望する就職形態



(3) 受講状況と企業志向

「受講したい」「受講中」「受講済み」と回答した者は、少ない数ではありますが自ら起業したいと考えている人がいるようです(2%～3%程度)。また、キャリア関連科目を受講者・受講希望者には、中堅・中小企業が多いとの回答がありませんでした。「受講するつもりがない」との回答者は30%以上が「その他」を選択しています。「受講するつもりがない」回答者は受講者・受講希望者以上に教員・進修・公務員希望が多いようです。「キャリアデザインプログラム」は民間企業就職だけでなく、進学等にも必要なコンテンツへの育成を目標していますが、学生側ではキャリア＝民間企業就職という意識が強いのももれなく見られます。

受講状況と企業志向



これで、平成23年度「キャリア意識調査」についてのこの報告を終わります。



「学生支援センターResearch Report」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム(内線2548, 6044@cc.nippon.ac.jp)で電子を入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。
 (http://tespot.lib.cocha.ac.jp/cocha/handle/10083/51315)

3) 留学生に対するヒアリング調査

調査の概要

本学の留学生数は、多少の増減はあるものの、2005年度以降、230名前後でほぼ横ばいの状態にある。しかし留学生に対する学生支援のニーズについて、個人レベルのもの以上に捉え、十分に検討してきたとは言い難い。そこで、本学の留学支援の現状および課題を明らかにすることを主たる目的として、本調査を実施することとした。

なお本学の留学生数は、非正規生、大学院生が多く、調査用紙の一斉配布・回収が難しいと思われるため、本調査は半構造化ヒアリングによって行うこととした。

調査目的：留学生支援の現状、課題を明らかにし、今後どのような支援が必要かを検討する

調査日時：平成24年10月

調査対象：留学生の学生モニター

主な調査事項：様々な方面（教育、生活全般、キャリア、就職…等）での留学生支援の現状と課題

調査の結果

ヒアリング調査を行った結果、「留学生相談室」「教育関連」「キャリア関連」「生活支援」について以下のような声があがった。

・留学生相談室について

- ・留学生相談室はとてもよい。日本に来て何もわからないときに、どんなことでも相談できたり、教えてもらえるので、ありがたい。授業のレポートなども、チェックや相談に乗ってくれるので助かる。
- ・チューター制度がとてもよい。個人チューターがついてくれるので、相談しやすい。
- ・チューター制度はありがたいが、チューターによって、留学生との関わり方に違いがあり、よくしてくれる人も多いが、あまり関わってくれない人もいる。事前にチューター向けの研修や説明会を行って、チューターの質を向上させていくといいと思う。
- ・留学生相談室の備品をもっと充実させてもらえるとありがたい。（パソコンが古くて遅いので、新しいものを補充してほしい、本・DVDが借りられて日本語の勉強になるのでありがたいが、小説などの蔵書をもっと増やしてほしい）

・教育関連について

- ・履修について相談に行きにくい。留学生は教務課のどこで相談していいかわからない。
- ・授業で、日本語を学ぶ機会や、日本語試験対策、日本文化などを学ぶ機会があって、ありがたい。

・キャリア関連について

- ・留学生向け就職説明会があるのはありがたいが、留学生を採用する企業や教育職(日本語学校など)、進学などの情報が全般的に少ないので、もっと増えるといいと思う。
- ・キャリアカウンセラーが、エントリーシートのチェックなどをしてくれるのがありがたい。
- ・他大学の留学生サークルに入っているが、そこではより多くの支援があり(常勤・非常勤の紹介、留学生同士の交流やOGのサポートなど)、お茶大にもそうした交流の場があるといい。

・生活支援について

- ・日本に来た当初は、区役所の手続きの仕方、銀行口座の作り方、携帯電話の契約の仕方など、分からないことが多かったが、チューターに聞いて、教えてもらえたのがよかった。
- ・アルバイトの探し方が分からなくて困ったことがある。大学のアルバイト情報サイトは、日本人と留学生の区別がなく、アルバイトの応募をしても留学生は断られることが多いので、留学生向けのアルバイト情報があるといい。
- ・研究生と正規生で、扱いがかなり違う感じがする。例えば、研究生では寮に入れない、ガイダンス等も少なく、どんな授業を取ればいいのか分からないなど、あまり支援が受けられないと感じる。
- ・寮の提供や留学生向けのイベント(国際交流の夕べ、茶道教室、生け花教室など)などがあって、日本文化を体験する機会があるのがいい。
- ・他大学でやっていたことだが、日本人の家庭での短期ホームステイなどができるといいと思う。
- ・日本人学生と留学生の交流の機会が少なく、残念。学内に気軽に行ける交流の場があるといいと思う。

ほか、「留学生の支援をしてもらえるのはありがたいが、支援の担当がばらばらで、困ったときにどこに相談に行ったらいいかが分かりにくい。国際交流チーム、グローバル教育センター、学生・キャリア支援チームなど、いろいろあるが、こんな問題があったらここに行けばいい、というような一覧があると便利だと思う。」といった声もあがっていた。

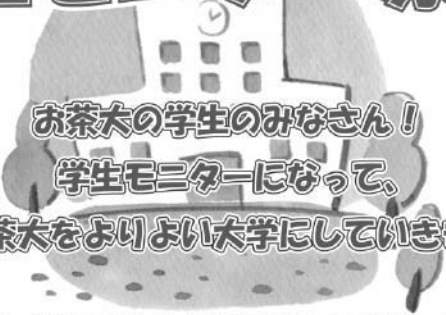
(2) 学生モニター制度の試行

学生モニター制度の概要

「生活支援（学生寮など）」「経済的支援（奨学金や授業料免除など）」「就職・キャリア支援」といった学生支援の実施について、学生自身の目線からみた意見・提案を求めることを目的とし、平成 22 年度前期に学生モニター制度についての検討を行い、平成 22 年度後期、23 年度、24 年度にわたって、その施行にあたった。

学内掲示や学生支援センターホームページを通して、以下のように本制度の告知や学生モニター募集説明会のアナウンスを行い、学生モニターに関心を持った学生に対しては、年 2 回程度（前期・後期）、説明会を実施した（告知は、ホームページ上にて常時実施）。

学生モニター募集!



お茶大の学生のみなさん!
学生モニターになって、
一緒にお茶大をよりよい大学にしていきたいませんか?

学生支援センターでは、学生のみなさんの生活実態や支援のニーズを把握し、よりよい学生支援を実現するために、学生モニターを募集しています。

募集要項

活動内容:「学校でどんな勉強をしているの?」「放課後はどんな活動をしているの?」など、学生の生活実態を理解するためのインタービュアーになってもらったり、「学校にこんなものがあたらいいな」「ここを改善して欲しい」など、みなさんの率直な意見も聞かせてもらいます。また、ミーティングに参加してもらい、大学のあり方や取り組みをよりよくする方法を、みなさんといっしょに考えていきます。

応募資格:お茶の水女子大学の学部生・大学院生なら、どなたでも応募できます。

応募方法:学生モニターの説明会（下記参照）に出席していただき、説明会を聞いて、学生モニターを希望する方には、登録カードを提出していただけます。説明会を聞いてみるだけでも、もちろん OK です。昼食の持ち込みも OK です。ふるってご参加ください。

応募締切:4月27日（水）17時まで

待遇:学生モニターに採用された方には、作業時間に応じて、謝金をお支払いいたします（学部生は時給 900 円、大学院生は時給 1100 円）。

採用期間:2011 年 4 月 1 日～2011 年 9 月 30 日


説明会日時・会場

日 時:4月25日（月）12:20～12:50（30分程度）
※4月25日に来られない方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

会 場:共通講義棟 2号館 102室

連絡先

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム 長澤 Tel : 03 - 5978 - 2646
Mail : gakusei@cc.ocha.ac.jp



学生モニター募集・説明会案内ポスター

説明会においては、以下の資料（平成 23 年度前期の例）などをもとに説明を行い、学生モニターの登録を希望する学生には、関連書類の提出を求めた。

学生モニターの役割・職務・待遇



○求める役割

- ・自己の生活実態情報の提供者
- ・周囲の学生の生活実態情報の提供者
- ・自己および周囲の学生の生活実態に基づき、不足かつニーズのある支援の意見者
- ・お茶の水女子大学に求める学生支援策の提案者

※「生活支援（学生寮など）」「経済的支援（奨学金や授業料免除など）」「就職・キャリア支援」についての意見・提案を、とくに期待しています

○職務例（平成 23 年度前期）

1. 自己の生活実態情報の提出 ※必須業務
 - ・月 1 回程度（提出期限厳守！） ※月により、お尋ねするテーマは異なります
 - ・自宅でも作業可能（こちらからメールで依頼→学生・キャリア支援チームへ作成書類を直接提出）
 - ・謝金は毎回 2 時間分相当

※個人名がわからないように「資料」として使用します。提出されたものは、学生支援センターにて責任をもって管理します
2. 自己および周囲の学生の生活実態情報、不足かつニーズのある支援などに関するヒアリング調査への協力
 - ・（人や時期にもよりますが）1・2 カ月に 1 回程度の予定
 - ・屋休みや各自の空き時間を中心に利用して、30 分程度
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・ヒアリング調査回答の準備やメモ作成も含め、謝金は毎回 2 時間分相当
3. ミーティングへの参加
 - ・こちらの設定したテーマに応じて、それに対応する学生モニターグループ+教職員で意見交換
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・謝金は参加時間に応じて（+準備やメモ作成成分も含めた α 分）
4. 学生生活実態調査の分析・それに基づく支援策の検討、次回調査の設計協力
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・謝金は協力時間に応じて（+準備やメモ作成成分も含めた α 分）
5. その他、学生支援センターや学生・キャリア支援チームの依頼があれば、積極的な協力をお願いします

○任期・募集人数・謝金

- ・平成 23 年 4 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日（各年度の前期・後期ごとに募集予定）
- ・各時期 30~50 名程度を予定
- ・謝金として、大学院生は 1 時間 1,100 円、大学生は 1 時間 900 円お支払いします



その他、不明な点があれば、学生支援センター・望月までお問い合わせください

e-mail:mochizuki.yuki@ocha.ac.jp tel:03-5978-2039

学生モニター説明会資料の例

さらに、「留学生に対するヒアリング調査」を行うと同時に、留学生の学生支援ニーズにより着目することを目的として、平成 23 年度後期からは留学生を対象とした募集も以下のように別途実施した。

留学生 学生モニター募集!

お茶大の留学生のみなさん!

学生モニターになって、一緒にお茶大をよりよい大学にしていきませんか?

学生支援センターでは、お茶大生の生活実態や支援のニーズを把握し、よりよい学生支援を実現するために、学生モニター制度を運営しています。2011 年度後期からは留学生の皆さんにも学生モニターへ参加していただくことで、さらに踏み込んだ支援を検討していききたいと考えています。

募集要項

活動内容:「学校でどんな勉強をしているの?」「放課後はどんな活動をしているの?」など、学生の生活実態を理解するためのインタビューになってもらったり、「学校にこんなものがあつたらいいな」「ここを改善して欲しい」など、みなさんの率直な意見も聞かせてもらいます。また、ミーティングに参加してもらい、大学のあり方や取り組みをよりよくする方法を、みなさんといっしょに考えていきます。

応募資格: 今回の募集は、お茶の水女子大学の学部・大学院に在籍の『留学生』が対象となります。

応募方法: 留学生 学生モニターの説明会(下記参照)に出席していただき、説明会を聞いて、学生モニターを希望する方には、登録カードを提出していただけます。昼食の持込も可能です。説明会を聞いてみるだけでも、もちろん OK です。ふるってご参加ください。応募カードには捺印もしていただけますので、印鑑をご用意ください。

応募締切: 10月25日(火) 17時まで

待遇: 学生モニターに採用された方には、作業時間に応じて謝金をお支払いいたします(学部生は時給 900 円、大学院生は時給 1100 円)。

採用期間: 2011 年 10 月～2012 年 3 月末

説明会日時・会場

日 時: 10月21日(金) 12:30～(30分程度の予定です) ※10月21日に来られない方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

会 場: 共通講義棟 2 号館 102 教室 (昼食持込可です)

連絡先

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム 長澤 Tel : 03 - 5978 - 2646 / Mail : gakusei@cc.ocha.ac.jp

留学生モニター募集・説明会案内ポスター

その結果、以下のように多くの学生モニターを集めることができ、定期的な報告書の提出やグループでのミーティングなどとおして、学生にとって有益な学生支援を検討し、その実施を推し進める一助となっている。

学生モニター制度の試行状況の概要

時期別 モニター数	報告書の主な内容	その他
平成 22 年度後期 (35 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援など） ・ 11 月（キャンパスガイド改善提案など） ・ 12 月（大学卒業後の進路希望、就職活動内容、進路に関して大学に求める支援など） ・ 1 月（学生交流スペースの必要性、学生会館・食堂・図書館などの利用状況など） ・ 2 月（学生寮について） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望・内定の Web 登録モニター業務 ・ 新入生調査設計モニター業務
平成 23 年度前期 (144 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月（前期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援、モニター志望動機など） ・ 6 月（この 1 年の主な活動予定、アルバイト・ボランティアの予定など） 	
平成 23 年度後期 (128 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、学生支援に関する情報収集方法など） ・ 1 月（この 1 年の主な活動の振り返り、長期休暇の予定など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア意識調査設計 モニター&回答促進業務
平成 24 年度前期 (141 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月（前期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援、モニター志望動機など） ・ 7 月（この 1 年の主な活動予定、アルバイト・ボランティアの予定など） 	
平成 24 年度後期 (106 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、学生支援に関する情報収集方法など） ・ 12 月（おいてほしい備品、学生寮での活動、交流活動の希望など）→学生寮モニター、留学生モニターのみ ・ 12 月（受給経験の有無、周知方法の提案、希望する奨学金のタイプなど）→奨学金・授業料免除モニター、留学生モニターのみ 	

学生モニターミーティング実施記録

担当テーマは、次の通り。

- ・ 学生モニター制度
- ・ キャリア意識調査・就活支援（キャリア意識調査終了後、「キャリア・就職」に改名）
- ・ 学生寮
- ・ 奨学金・授業料免除
- ・ 部活動・サークル活動
- ・ アルバイト
- ・ 学生・キャリア支援センターHP ※事業期間中、組織統合によりに学生支援センターより呼称変更
- ・ 学生・キャリア支援センターメールマガジン
- ・ 留学生（平成 23 年度後期からの留学生モニター枠設置後、基本的に全てのテーマについて参加）

以下は平成 23、24 年度学生モニターミーティング開催の記録です。

平成 23 年度

開催日	担当テーマ	内容
6 月 24 日	学生寮	寮生活の問題点や大学への要望について
7 月 1 日	キャリア意識調査・就活支援	キャリア意識調査項目協力
7 月 5 日	アルバイト	就労アルバイトについての聞き取り
7 月 6 日	学生モニター制度・ センターHP	学生モニターへの連絡方法について センターHP の閲覧者数向上に向けて
7 月 7 日	部活動・サークル活動	部活・サークル活動実態についての聞き取り
7 月 12 日	奨学金・授業料免除	各種支援の認知と要望について
10 月 28 日	キャリア意識調査・就活支援	実施中のキャリア意識調査回答率向上検討
11 月 25 日	奨学金・授業料免除 留学生	奨学金関連サイト作成の為の情報収集と検討
1 月 12 日	学生寮 留学生	次年度学生寮ガイドブック内容のチェック
1 月 13 日	センターHP アルバイト 部活動・サークル活動 留学生	次年度開始予定だったメールマガジンの 発刊準備

平成 24 年度

開催日	担当テーマ	検討内容
7月 3日	奨学金・授業料免除 センターHP 留学生	センターHP の奨学金・授業料免除ページの改善 検討
7月 4日	キャリア・就職 留学生	他大学のキャリア・就職支援情報収集と検討
7月 10日	学生寮 留学生	学生の暮らしに関する支援の検討
7月 11日	学生モニター制度 センターHP 留学生	他大学の学生による学生支援情報収集と検討
7月 17日	メールマガジン 留学生	メールマガジン配信内容検討
7月 31日	メールマガジン 留学生	メールマガジン発行に向けた意見交換
10月 10日	留学生	留学生支援の現状と課題、今後の支援検討
12月 3日	学生モニター制度 留学生	学生モニターミーティング参加の義務化を検討
12月 13日	キャリア・就職 留学生	内定者の後輩就活支援等、学生間相互支援の 強化について検討

(3) 学生カルテシステムの設計および構築

学生の生活実態を把握し、学生のニーズにきめ細かに対応する諸学生支援策（学生寮、授業料免除、大学独自奨学金）を統合的かつ効率的に実行するために、学生支援カルテ（情報）システム（独立型サーバー上で現教務事務管理システムを拡張し、カルテを管理するソフトウェアを開発）を設計・構築した。

本システム上には、個々の学生ごとに、諸学生支援策を受けている状況とともに、平成23年度以降実施している「新入生の生活に関する調査」（「2. 取組報告(1)学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供 1)各種調査の設計・実施・分析」参照）の回答などの情報を蓄積している。

※「新入生の生活に関する調査」より得ている情報は、以下のとおりである。

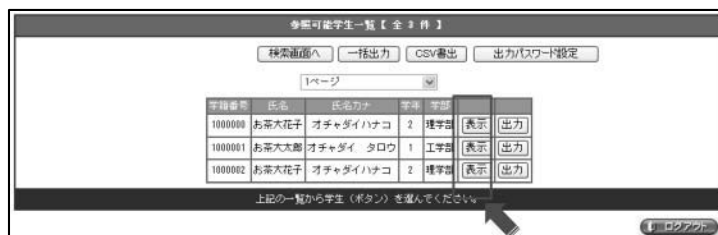
- **基本情報**（氏名、学部学科、生年月日、住所、連絡先、出身高校、浪人・留学・就職の経験、入学後の住居形態など）
- **経済情報**（家計支持者、年収（家計支持者・世帯）、奨学金・学費免除の状況（高校時・大学時）など）
- **進路情報**（大学卒業後の進路希望など）



ログイン画面

本システムには「検索機能」もあり、「学籍番号から学生を検索する」「項目を指定して学生を検索する」「項目を組み合わせて学生を検索する」ことも可能となっている。

検索した学生については、カルテを表示することも可能である。



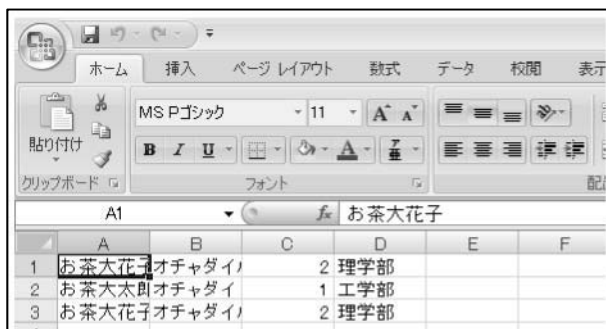
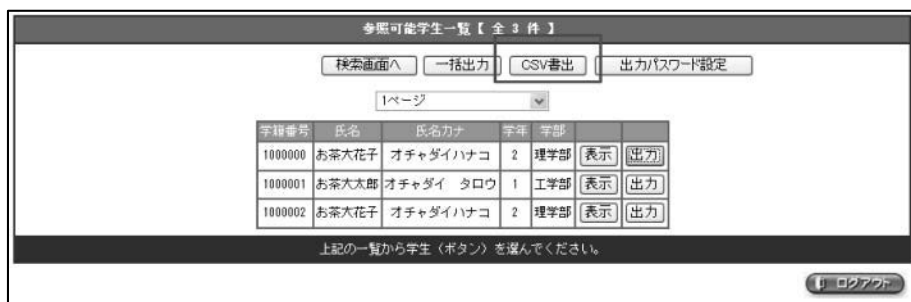
検索結果一覧画面（カルテを表示する場合）



学生カルテ画面の例（一部）

カルテ画面には、学生の特殊事情等の入力、修正、削除も可能である（権限付与者のみ）。

ほか、検索結果を CSV 出力機能も加えることで、個々の学生情報の蓄積のみならず、学生集団としての情報として分析することも可能としている。



CSV 出力の例